の心理的方面のみを研究したからとて兒童の生活の全部を知る譯には行かない。此他に生理的倫理的、方面に於て教育上顧慮す可き諸點は擧げて數ふることが出來ない。要するに兒童心身の狀態全部を講究することに因つて得るところは悉く教育上に應用す可きもので單に心力作用の一方面のみを知ることを以て全般の教育を施行するに適するかの如く思惟するのは誤れるの甚だしきものである。以上は兒童學考究の必要なる所以であるが尙此他に種々な利益は斯學研究者に與へられるものである。例へば兒童に對する同情の如き兒童取扱に對する興味の如きは兒童學研究の爲めに一層增加するもので從つて眞に兒童を尊重し之を愛護せんとする觀念は湧然として起り來るに至るものである。

遊戯とは何ぞや

和田實

幼兒の生活々動は遊戯と習慣の集りとであるが故に之を教育する手段や方法も亦此遊戯と習慣との中に見出す可きものであると云ふことは幼兒教育上に於ける吾人の主張である。併し吾人が所謂遊戯と云ふ語は元來極めて曖昧な言葉で往々にして數種の意味に解釋されることがある。或は特に職業を持たぬ人のことを彼は遊んで居ると云ふし、或は日曜の一日を別段爲すこともなく暮したとて之を遊んでしまつたと云ふ。從つて時には遊戯は茫然と無爲閑散に時を過すと云ふ樣な意味に用ゐられて居る。併し學校などで教科目中に列記した遊戯と云ふ字の意義は斯る安慰な意味でなく頗る嚴格な意味を以て居る。此の如き數種の解釋は果して何れが正當なものであらうか、遊戯を以て教育の事項として居る幼兒教育者は此點に關して十分な研究をして置く必要があるまいか。因て吾人は茲に遊戯に就いて復も根本的說明を試み樣と

思ふのである。

遊戯とは何そやと云ふことに就いて最も注目に値する諸學者の説は凡そ三種であるが其第一種は獨逸のシルレルに因つて主張されたもので遊戯の生理的見解とも云ふ可きものである。即ち遊戯は動物の勢力の過剰より生ずる洩氣的活動であると云ふのである。英のスペンサーも未た之と同樣に次の樣なことを云ふて居る。

遊戯は勢力の人爲的實證である。自然的實證の存せざる場合に現實の行動に費消せられずして其代りに假現の行動に於て用ひらるゝ勢力の人爲的實證である。

此勢力過剰説は遊戯の起源に於ける必要條件としては許容することが出來るが、以て遊戯の全部を説明するには尚不十分なるを免れない。殊に遊戯が教育事項の一として採用せらるるに至つた理由を考へて見れば遊戯は決して此の如く勢力の冗費的活動でないことは明である。要するに此説の採る可き處は其遊戯の起源が身的勢力に背ふ所あることを證明する點に存すると云はねばならぬ。

遊戯とは何そやと云ふことに就ひて第二に注目す可き説は米國ガートマスの教授ヘルマン、ホーンの主觀的心理的見解である。教授は其著教育哲學の中に次の樣なことを云ふて居る。

遊戯は仕事の反對なり。仕事は常に達せらる可き他の目的の爲めに爲さるゝものなれども遊戯は常に夫れ自身の爲めに爲さるゝものなり。仕事は愉快なることあり。愉快ならざることもあれど遊戯は常に愉快なり。仕事は嚴肅なるも遊戯は輕快なり。仕事に於ては一般的自我が主となり遊戯に於ては格段なる個人的自我が主となり居れりと。

此説は吾人が遊戯の心理的性質を説明するに誠に恰好な論據である。實際遊戯なるものは常に夫れ自身の爲めに爲さるゝものでなければならず。又其結果は常に必ず愉快でなければならぬ。此二つの性質を缺いた時には遊戯の範圍を超えて居るもので或は勉學或は勤勞と認めなければならぬ。又先年我文部省の命に因りて体操及遊戯に關する取調を命せられたる委員の報告説明書とも見る可き

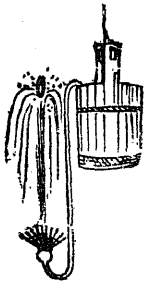
「体育の理論及實際」中には左の數語がある。是もまた吾人の遊戯、遊戯の本質に關する所説を立證するには適當なる説明である。と思ふから茲に引用して見やう。

心理學上より遊戯の意義を考察すれば快感と自由の意識とは人類遊戯の現象に通じたる主要の性質にして、是等の衝動より遊戯は漸次發展し之が爲めに更に精神活動の發展を助くるなり。蓋し遊戯の原始的衝動は生物學的若しくば生理學的根據を有するのみにして、心理的意義は殆んど認め難かる可しと雖も是等盲目的の衝動、意識に上りて其結果快感を覺ゆるに至れば即ち心理的意義は此に明かなりとす。故に遊戯には心身の何れたるを問はず。全体を通じて活動其物を以て快樂とする特質あり。然れども其稍進むに及びては單に活動の快感のみならず其活動を起す主動者は自我にして之を爲すことが自我の自由に基くことを知るに及び快感は一層復雜に一層適切に感ぜらる可し。

以上二種の所説で遊戯の本質に關する見解は略成立するであらうと思ふが尚今一つ茲に注目す可き説がある。是は獨のグルースや米のボルドーウイン等に因りて主張されるもので、詰まる所、遊戯を以て人生の事業を爲す豫備なりと云ふのである。此説に因ると人生の諸活動は必ず其萌芽を遊戯中に培養して居るものであるから兒童の遊戯は將來に於ける嚴肅なる生活の用意の爲めに與へられる自然的方法であると云ふのである。實際幼兒の遊戯と云ふものは其主觀的心理狀態から云ふても將た又遊戯の實質から見ても共に活社會に必要なる凡べてのものを具有して居るもので美術、音樂、文學の萌芽は勿論、政治、學術、慈善等に關する活動並に諸種の實業、若しくは戰爭等に至る迄苟も人生に現出す可き諸活動の萌芽は悉く之を具有するものである。或意味に於ては彼諸種の犯罪の萌芽も此中に藏せらるゝものであると云つても決して誣言ではない。古さは孟子を始め近くは佛のルッソー、英のロック等皆一齊に人性の善なることを主張して子供は清靜無垢白紙の如きものであると云つて居る。殊に我幼兒教育の開祖

たるフレーベルは熱心に幼兒の性善說を主張して之を惡くするものは即ち敎育者であると迄云つて居るが併し此意味は大体に於ての議論で決して極端に信用す可きものではない。兎に角幼兒の遊戲は人生の諸活動、諸出來事の基礎若しくば萠芽と云ふものを悉く所有して居ると見ることは確に間違のないことである。從つて幼兒は遊戲に於て其天眞を發露し其自我を實現した時に玆に天與の個性は十分に發展することが出來るのである、と云はねばならぬ。是は取りも直さず一種の社會學的見解で自ら又一種の實現說である。

之を要するに遊戲なるものは、生理的基礎を有する諸種の衝動と並に此衝動の滿足より得られたる諸種の興味とを根據として發達したる幼兒の自發活動であつて幼兒は之あるが爲めに發達し、之をあるがために未來を準備し得るものであると云はねばならぬ。



育兒の經驗

自治自賴（其二）

光藤泰次郎

前に申した樣な主義で、養成して參りましたから、數へ年五つになつて、お茶の水の附屬幼稚園にはいつた其の當日から、一所に連れては參りますが決して誰もついては居りません。大小便其の他自分の事はふだん自分で始末しつけて居りますから少しも吾々は心配しませんでした。しかし如何に自治自賴の風に養成したからとて、矢張り幼兒の事であるから、隨分とも諸先生方にお世話をかけた事だらうと推察して居ります。そして其の多大の御苦勞に對しては、感謝の念に堪へないのであります。さて幼稚園入園の當日から、湯島天神町なる自宅に歸る道をよく敎へまして、三四日目から、電車道を横ぎる所まで見てやつて、あとは一人で歸るをさせならしました。所が最初の中は大人しく歸つて行きまして、少しも心配しませんでしたが。彼長男は始めて一人あるきを始めたと